

令和5年度岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議 会議録（概要）

- 開催日時 令和5年5月24日（水）10：00～12：00
- 開催場所 ピュアリティまきび3階「飛鳥」
- 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 議題 1 令和4年度 of 取組実績について
2 令和5年度 of 取組（案）について
- 会議資料 別添資料のとおり

新任委員の紹介、議題1・2について事務局から説明（議長：岡本輝代志会長）

○主な御意見・御質問

（委員）

3R等に関するアンケート調査はウェブで行っているが、対象者はどうやって絞ったのか、回答者数や調査結果はどうだったのか。

（事務局）

ウェブアンケートなので、回答者数は調査人数の1,200人で、岡山市・倉敷市などの都市部、沿岸部、それ以外の地域と400人ずつ、男女半分ずつでアンケートをとらせていただいた。

調査結果について、海ごみ関係では、どの地域区分でも若い世代の関心度が低く、何年か前に行ったアンケートでも同様の結果だったので、そこは変わっていないことが確認できた。食品ロスも同様に、若者の関心が薄かった。中でも「手前どり」の認知度が低く、そこは伸ばしていけるのではないか。

（委員）

若い方の関心が低いということだが、自分の肌感覚としては結構やっていると思う。発信方法など、従来どおりのやり方だけでなく、変えることも必要ではないか。

（委員）

新機能リサイクルボックスの設置による効果検証はどのようにするのか。

（事務局）

効果検証については、県としては行っていないが、今回設置したのは全国清涼飲料連合会が開発されたリサイクルボックスであり、既に広島県や東京都で実証実験が行われており、異物混入や周辺の散乱ごみの減少といった効果があったという結果を受けて、本県も導入を決めた。

（委員）

フードトリップはどうやって広報していくのか。

（事務局）

市町村や事業者団体などを通じて周知していきたい。また、中小企業を訪問し相談にのる3R推進アドバイザーからも、積極的に紹介してもらうようにしている。食品

関連事業者だけでなく、災害備蓄品などの登録も幅広く呼びかけてまいりたい。

フードトリップについては、まだ十分な周知ができていない。既にフードバンクとつながっているところは、その活動を拡げていただければよいと思っている。ロスが出ているが廃棄しているとか、フードバンクとつながる術がないとか、そういったお話があれば教えていただきたい。

(委員)

(レジ袋削減に向け) われわれもマイバッグ運動に取り組んできたが、有料化で流れが一気に変わり、大きな成果をあげた。自販機横のリサイクルボックスも、飲料業者だけにまかせるのではなく、法律の規制に繋がるような運動になることを願っている。

(議長)

電子商取引など、生活者の行動も変わってきている。環境問題も大きく変わってきているのではないか。本会議で議論する内容も、レジ袋削減から始まって、だんだんメニューが増えた。新規も社会の変化に対応するためには必要と思う。

(委員)

プラスチック3Rについて、できれば効果が見える化してほしい。3R宣言事業所の好取組事例を募集し配信する取り組みは面白い。

効果の見える化は、できるものとできないものがあると思うが、いろいろな政策について見える化することで前に進むと思う。

ワンウェイプラスチック削減キャンペーンについて、来年の会議でこれだけの効果があったというのを報告してもらえたら。

(委員)

事業系食品ロス削減マッチングサービスの運用は非常に重要。3Rの基本は、リデュースが1番で、リユースが2番、リサイクルが3番だが、世の中の動きは逆転している。リデュースは事業者が取り組まないと難しい。リデュースに、もう少し焦点をあてた検討が必要ではないか。食品ロスの問題に対して、これだけ社会的に取り上げられるようになった現状では、かなり企業の考え方や姿勢も変わってきているのではないかと感じている。農水省の方でもリデュースの取組事例がかなり出てきているので、岡山でも、そういった企業の方を集めた検討会ができればいいと思う。

(委員)

ペットボトルは非常に回収リサイクル率のよい製品。ペットボトルが目立つのでわかるが、海ごみの中でもプラスチックが一番問題で、プラスチック製品の微細になったものが生態系に問題を起しているといわれている。身の回りのプラスチック製品をごみとして捨てるより、リサイクルだが、リサイクルは非常に費用がかかるため、なかなか進まない。発生から減らしていく取組が重要だ。

(委員)

河川ごみ等回収促進事業、この新規事業を非常に評価しており、期待している。